

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 1990 号

Capsule endoscopy after hematopoietic stem cell transplantation can predict transplant-related mortality

(同種造血幹細胞移植後に行うカプセル内視鏡で移植関連死亡を予測することができる)

居軒 和也 (いのき かずや)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、同種造血幹細胞移植後のカプセル内視鏡による炎症所見と移植関連死亡の関連を始めて明らかにした臨床的意義のある論文である。

進行期の血液悪性疾患に対する治療として同種造血幹細胞移植は治癒を目指すことのできる治療である。移植治療の進歩により治療関連死亡は減少傾向であるが、依然として腸管 GVHD は移植関連死亡の原因となっている。腸管 GVHD の重症度評価は下痢量をもとに行われているが、間接的な所見でありしばしば正確性に欠く。一方でカプセル内視鏡は非侵襲的に小腸を直接観察できる検査法であり、腸管 GVHD 診断に対する有用性について報告されている。

カプセル内視鏡所見と移植関連死亡について検討した報告は無い。本論文はカプセル内視鏡所見から移植関連死亡を予測できる可能性を示しており、新規性が高い。

本論文での結果をもとに、移植関連死亡とカプセル内視鏡所見に着目したさらなる研究、GVHD に対する重症 GVHD への早期治療介入および、腹部症状を示す移植患者に対してのカプセル内視鏡がより積極的に行われていくことが期待される。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。